

## 巻頭言

# 新しい時代に向けての研究所の衣替え

所長 宇津宮 孝一

私は、2002年3月26日に開催された(財)ハイパーネットワーク社会研究所の理事会および評議員会におきまして、公文俊平氏の後をうけて、新しく、所長(兼専務理事)に就任しました。

当研究所は、1993年3月29日に通商産業(現:経済産業)大臣および郵政(現:総務)大臣の許可を得て設立されました。設立の準備から、創設期の立ち上げ、研究所の体制の確立、運営および研究や事業の推進に至るまで、9年余の長きにわたり全力を傾注していただいていた前所長 公文俊平氏、前副所長 月尾嘉男氏(総務省総務審議官)、前専務理事 帯刀将人氏(大分県副知事)、顧問 尾野徹氏を始めとする関係者の皆様、本研究所の設置およびその後の運営に絶大なるご支援をいただいています総務省、経済産業省ならびに設立者であります大分県、NTT、NTTデータ、NEC、富士通、及び賛助会員の皆様方にあらためてお礼を申し上げたいと存じます。そして、新しい時代に向けて衣替えしました本研究所にこれまで以上のお力添えをお願い申し上げます。

本研究所の設立時の目的は、「21世紀に出現するハイパーネットワーク社会(「高度情報ネットワーク社会」)の早期かつ円滑な実現に資するために、その基本構造と成立に係わる社会的・技術的諸課題を調査研究し、地域での実証実験を通じて、日本および世界の発展と市民生活の向上(QOL)に寄与する」とされています。この10年間の情報通信(IT)技術の進展は目を見張るものがあります。それらは、インターネット利用の日常化、デジタル化に伴うコンピュータと通信と放送の融合、ブロードバンド(高速大容量)ネットワークの普及などに如実に現れています。しかしながら、設立当時描いたハイパーネットワーク社会到来の姿には、正直言ってまだ程遠い感がするのは否めません。裏返しますと、本研究所の設立構想が時代に先んじていたと言えるのかもしれませんが、また、e-Japan構想で謳われている高度情報社会が21世紀初頭に到来することを、当時既に予見していたのだと、その先見性の的確さを改めて思います。

さて、こうした時代背景をいま振り返りながら、来年10周年を迎える当研究所のこれからの在り方をどうするのか、昨年度、公文所長の意向を受けて、十分な時間をかけて所内で検討してまいりました。その結論は当たり前のことですが、「時代を見据えて、これまで以上に、地域を基盤にして研究所の研究機能と能力を高めよう。」ということでした。そして、次のようにこれからのハイパーネットワーク社会研究所をして行こうというものでした。

### (1) 理念(あるべき姿)

地域に立脚し、世界に開かれた「高度情報ネットワーク社会に関する研究・交流拠点」

### (2) 目標(目指すべきもの)

社会科学のコミュニティへの展開および情報技術の社会化の推進により、地域情報化のフロンティアを目指す。もっとわかりやすく言いますと、当面、下記を目指します。

「e - community (いい社会)・e - OITA (いい大分)」の実現

(3) 手法 (取組みの方向性)

「ローカル (地域) から発想し、グローバル (世界) に展開する」、そのための研究活動面の基本方針は、3つの融合、すなわち

社会科学と情報科学を基盤とする「文理融合」

ハイパーネットワーク社会の構築に向けて、「情報社会学」と「情報技術」の両面から研究を推進する。情報技術に関しては、「技術の社会化」も推進する。

「学理と実地の融合」

理論 (学理) と地域での実証実験 (実地) による地域モデルの構築を通じて、ハイパーネットワーク社会を実証的に研究する。

民 (市民・民間) と学と官とによる「民・学・官融合」

民と学と官の知恵の結集による連携・協働により、研究を推進する。

を実現することとしました。

(4) 研究体制

研究所生え抜きの要員および企業から出向して来ている方々に加えて、地域の大学の研究者や地域外の研究者を共同研究員に迎え、研究体制を整備する。

以上を骨子とする 2002 年度の新たな研究所の体制を承認していただき、4 月 1 日から、公文理事長以下、共同研究員の方々を含めて総勢約 20 名近くのスタッフで、研究所が再出発しました。東京の公文理事長・会津副所長と大分の研究所スタッフが緊密に連携・協働しながら、地域に根差すユニークで世界に誇れる研究所としての活動が始まりました。情報文明や情報政策などの情報社会論に関する調査研究、地域 I X など情報ネットワーク技術やコンテンツ制作技術の研究開発、電子自治体および教育の情報化などに関する研究や支援事業の実施、豊の国ハイパーネットワークの利活用に関する調査研究や地域情報化の支援などに所員が積極的に取り組んでいますので、その成果が期待されるところです。

今回は 2001 年度の本研究所事業報告という形で、本報告書を出版することとしました。2001 年度には、「ハイパーネットワーク 2001 別府湾会議」を「ブロードバンドコミュニティ」というテーマで実施しました。ブロードバンドコミュニティを実現するための諸問題を熱心に討議し、6 つの分科会でその論議を深めました。さらに、大分県が整備中の「豊の国ハイパーネットワーク」構築の支援を引き続きしながら、ハイパーフォーラムの開催、ブロードバンドクリエイタ養成、IT 塾を通じての技術アドバイザの養成や県民に対する情報教育の支援など、多彩な事業を展開してきました。こうした事業を含めて、各研究員が取り組んできました調査研究、研究開発およびさまざまな活動について、本報告書にまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、ハイパーネットワーク社会研究所は、社会に開かれた研究所として機能するよう、これ自身も研究テーマとして調査研究しているところです。本研究所が大分から世界への、また世界から大分への架け橋として機能し、世界に誇れる情報社会科学の研究所として、その存在感を内外にアピールできますよう引き続き皆様方のご支援・ご協力をお願いします。